

鬼北町立広見中学校

道徳通信

道徳主任 酒井 智有

NO. 81

令和8年7月13日発行

よりよく生きる

2年生道徳授業の紹介「ネット将棋」(読み物資料)

【資料のあらすじ】

主人公はネット将棋を楽しんでいる中学生です。顔も名前も知らない相手と対局を重ねるうちに、勝ち負けにこだわるようになります。ある日、相手に対して思いやりにも欠ける言葉や態度をとってしまい、相手を傷付けてしまいます。その出来事を通して主人公は、画面の向こうにも自分と同じように気持ちを持った人がいることに気付きます。そして、インターネット上でも現実と同じように相手を尊重し、思いやりを持って接することの大切さを学んでいきます。

健人のツッコミに笑えなかった「僕」は、どんな気持ちだっただろう。(生徒の意見)

- ・自分の卑怯な行動に、自分自身が情けないと思った。
- ・時間稼ぎをして負けを認めないなど、勝ちにこだわりすぎていた。
- ・対戦相手に対して、礼儀が欠けていた。 ・自己中心的な考えに陥っていた。
- ・「負けても得られるものがある」とか、「ベストを尽くす」とか、考え方が変わった。

今日の学習を通して考えたことを書きましょう(道徳ノートより)

- ・見えないところでも礼儀を大切にすることで、その人の心の広さが見えてくると思いました。だから私も、トイレのスリッパなど、誰も見ていないからよいという考え方は捨てて、見られていないところこそ、きちんとできる人になりたいと思いました。
- ・将棋以外のスポーツやゲームなどでも、相手が見える対戦、見えない対戦でも、マナーやスポーツマンシップを持ち、相手をリスペクトすることで、自分が成長することもできるし、何より楽しく活動することができるということを学びました。
- ・僕は、今日の学習を通して、人に見られているときだけ頑張っても、あまり意味はなく、見られていないときに自分がどう頑張るかが大事だと思いました。だから、部活動でも、先生に見られていないから手を抜こうと考えるのではなく、先生がいなくてもいつも通り頑張ることを大事にしようと思いました。
- ・自分の心の強さが試されていると思う。理由は、相手が見えていないからいいやといってログアウトするのではなく、相手が見えていないからこそ礼儀を大切にして、自分と向き合うべきだと思ったから。

この教材で考えたいことは、

- ネット上でも相手を思いやることの大切さ
- 匿名だからといって何を言ってもよいわけではないこと
- 自分の言葉や行動が相手に与える影響
- 責任ある情報モラルとコミュニケーション

などでした。生徒の皆さんは、話し合い活動を通して、上記の大切さについて学ぶことができたのではないかと思います。

